

# 志布志市ふいやしき池から得られた水生昆虫の記録（2019）

中峯 敦子

## Records of Aquatic Insects Obtained from Fuiyashiki Pond, Shibushi City in 2019

Atsuko NAKAMINE

### はじめに

昨今、鹿児島県内でも農業従事者の減少や高齢化により耕作放棄地が増えている。一方、地球環境問題への関心の高まりや生物多様性の保全を目指して、里山の復元活動を推進する市町村担当者や地域住民が増えている。そのような中で休耕地や放棄水田の利活用と地域の活性化を目指し、「ビオトープ」を整備する例も見られるようになった。

しかし、一部のビオトープでは、整備後、無管理状態が続き、水辺の陸化や帰化植物等の侵入、樹木の繁茂による日照不足などで当初の環境が失われている状況がある。湖沼、草地、河川、湿地、岩場、砂地など、どのような環境のビオトープにおいても、整備後、継続的で適切な管理作業を行わなければ、地域の自然生態系を反映した環境を構築するという本来の機能を維持できない。そこで管理者がビオトープの状況を知り、今後の管理方法を検討するために生物相を定期的にモニタリングすることが大切である。

今回、鹿児島県志布志市にある整備後9年が経過したビオトープ池「ふいやしき池」の水生昆虫採集を行った。調査結果は、調査地のある地域の自治会及び行政関係者にも提供することになっている。

### 1 ふいやしき池について

ふいやしき池は、鹿児島県志布志市蓬原のふいやしき公園内にある。2010年に、蓬原中野自治会が、志布志市「ふるさとづくり委員会事業」の一環で休耕地をビオトープ池に整備し、管理を続けている。別区画には大賀ハスが植栽されており、花期には訪れる人も多い。

池の植生としては、全体にスイレンとトチカガミが広がり、水面に葉を広げているが、全面を覆うほ



図1 調査地（志布志市）



図2 ふいやしき池

どではない。またマコモやガマのような大型の抽水植物がないため、水面は明るい。水深は約0.3m～1mほどで比較的浅く、隅の1か所から近くの小川の水を少量ずつ流し込んでいるため、透明度は高かった。池の周辺は、かつての休耕地が湿地となって続いており、スギ林及び二次林に囲まれる環境である。

## 2 調査日と調査者

下記のとおり、2回の調査を行った。

- ・2019年8月26日 10:30～12:00 中峯敦子
- ・2019年11月3日 10:00～12:00 中峯敦子

なお、11月の調査には、県立博物館フィールドワーカー養成講座受講者4名が同行したが、今回の記録はすべて中峯が目撃及び採集した標本に基づいている。

## 3 調査の目的及び方法

当博物館が収蔵する水生昆虫の標本資料は不十分で、特に大隅半島産の標本がほとんどない。また水辺の環境は変化しやすいことから、今後、定期的に調査できるフィールドとして、ふいやしき池に着目した。

方法は、定性調査を行った。池の縁に沿って移動しながら、池底の砂泥、水草帯、陸上の草本が覆いかぶさるよどみなど、より多様な環境を水網（網目1mm×1mm）ですくった。大型で判断の容易な昆虫等は目撃記録とし、肉眼で判断できないものは持ち帰り、同定を行った。

## 4 調査結果

今回は、水生カメムシ類及び水生コウチュウ類を中心に採集を行い、8科16属18種の昆虫を採集した(図3・4)。

採集及び目撃の結果は以下のとおりである。採集地はすべてふいやしき池であり、目撃及び採集の年はすべて2019年、採集者はすべて中峯なので省略する。また、学名等については、中島ら(2020)に従った。

### カメムシ目(半翅目) HEMIPTERA

#### アメンボ科 Gerridae

- ・ヒメアメンボ

*Gerris latiabdominis* (Miyamoto, 1958)  
(3.XI 1ex.)

#### イトアメンボ科 Hydrometridae

- ・ヒメイトアメンボ

*Hydrometra procera* (Horvath, 1905) (3.XI 1ex.)

#### マツモムシ科 Notonectidae

- ・マツモムシ

*Notonecta triguttata* (Motschulsky, 1861)  
(26.VIII 3exs.) (3.XI 3exs.)

#### タイコウチ科 Nepidae

- ・タイコウチ *Laccotrephes japonensis* (Scott, 1874)  
(26.VIII 3exs.) (3.XI 3exs.目撃)
- ・ミズカマキリ *Ranatra chinensis* (Mayr, 1865)  
(26.VIII 5exs.) (3.XI 5exs.目撃)

### コウチュウ目(鞘翅目) COLEOPTERA

#### コガシラミズムシ科 Haliplidae

- ・コガシラミズムシ

*Peltodytes intermedius* (Sharp, 1873) (3.XI 9exs.)

#### コツブゲンゴロウ科 Noteridae

- ・ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

*Canthydrus politus* (Sharp, [1873]) (3.XI 1ex.)

#### ゲンゴロウ科 Dytiscidae

- ・ケシゲンゴロウ

*Hyphydrus japonicus japonicus* (Sharp, 1873)  
(3.XI 6exs.)

- ・チビゲンゴロウ

*Hydroglyphus japonicus japonicus* (Sharp, 1873)  
(3.XI 1ex.)

- ・ヒメゲンゴロウ

*Rhantus suturalis* (W.S.Macleay, [1825])  
(26.VIII 5exs.) (3.XI 15exs.)

- ・ハイイロゲンゴロウ

*Eretes griseus* (Fabricius, [1781])  
(3.XI 5exs.目撃)

- ・シマゲンゴロウ *Hydaticus bowringii* (Clark, 1864)  
(26.VIII 3exs.) (3.XI 6♂1♀)

- ・ウスイロシマゲンゴロウ

*Hydaticus rhantoides* (Sharp, 1882)  
(26.VIII 5exs.)

- ・コシマゲンゴロウ

*Hydaticus grammicus* (Germar, [1827])  
(3.XI 1♂)

- ・コガタノゲンゴロウ

*Cybister tripunctatus lateralis* (Fabricius, [1798])  
(26.VIII 5exs.) (3.XI 10exs.目撃)

#### ガムシ科 Hydrophilidae

- ・ガムシ

*Hydrophilus acuminatus* (Motschulsky, 1854)  
(26.VIII 1ex.) (3.XI 1♀)

- ・ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius, [1792])

(26.VIII 5exs.) (3.XI 1ex.)

・ゴマフガムシ *Berosus punctipennis* (Harold, 1878)  
(3.XI 2exs.)

## 5 考察

上記の昆虫類の中で、タイコウチ科ミズカマキリ、ゲンゴロウ科ヒメゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウが比較的多く見られた。また、少なかったのはアメンボ類で、水面を浮葉植物が覆っている状況が反映されたのかもしれない。

また、鹿児島県の絶滅のおそれのある昆虫として準絶滅危惧種に挙げられているガムシ科ガムシが8月、11月のどちらも目撃及び採集された。さらに、同地での採集では、水生昆虫類とともに準絶滅危惧種タニシ科マルタニシ *Cipangopaludina chinensis laeta* (v.Martens, 1860)も得られた。このことから調査地が、比較的流れの少ない止水的な環境であること、生息域水系の環境が長期間安定している場所であることが分かる。

以上のことから、この池は、里山的な良好な水環境が維持されており、採集された昆虫の多くは、この地域が以前、水田だった頃から生息を続けてきた種ではないかと考える。



図3 ゲンゴロウ類



図4 ミズカマキリ・タイコウチ

## 謝辞

志布志市物多様性地域戦略検討委員会委員の窪健一氏、志布志市役所市民環境課及び蓬原中野自治会の皆様にはふいやしき池を御紹介いただき、調査にも御協力いただいた。厚く感謝申し上げます。

## 6 おわりに

ふいやしき池には、水際にイネ科草本が繁茂する場所、浮葉植物が葉を広げる場所、常に水が流入する場所など多様な微環境がある。また一般的に休耕田が、放置されると数年で乾燥し、草地に代わることが多いが、この池の周辺にある休耕田は、9年経過してもなお、適当に水が補給されており、湿地を維持している。このことから、今後、池を含め、周辺のいろいろな環境で、時間をかけて調査すると、ゲンゴロウ類等の種数がさらに増えることが期待される。

また、調査中にトンボ目ギンヤンマ *Anax parthenope* Julius (Brauer, 1865)、あるいはクロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus nigrofasciatus* (Oguma, 1915)と思われるものなど、数種のヤゴを目撃した。今回は同定の対象から除外したので、今後、トンボ目、チョウ目の調査を加えることで、多面的に水辺とその周辺の環境について考察することができると考える。

## 引用・参考文献

- 中島淳・林成多・石田和男・北野忠・吉富博之 (2020) 日本の水生昆虫. 351pp. 文一総合出版, 東京.
- 鹿児島県(2016)改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編-鹿児島県レッドデータブック-. 401pp. 鹿児島県環境技術協会. 鹿児島.
- 森正人・北山昭(2002)改訂版図説日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版, 東京.
- 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司(1999)原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑: 660-664. 北海道大学図書刊行会, 北海道.
- 松井英司・高井泰・田辺力(1988)鹿児島県の水生昆虫相. *Satsuma* (100): 61-115.
- 松井英司(2003)鹿児島県で採集された水生昆虫類. *Satsuma* (128): 11-16.

